

## 人権教育に関する特色ある実践事例

### 基準の観点

学校種間の接続・一貫性を追求した実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

新潟県村上市

#### ○学校名

村上市立猿沢小学校

#### ○学校のURL

<http://www.city.murakami.niigata.jp/asahi/sarusawa/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】 6 学級 【特別支援学級】 2 学級 【合計】 8 学級

#### ○児童生徒数

【全児童生徒数】 82 人（平成27年5月1日現在）  
（内訳：1年生12人、2年生18人、3年生9人、4年生16人  
5年生15人、6年生12人）

#### ○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成24～26年度 人権教育総合推進地域事業 推進協力校（朝日中学校区）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【朝日中学校区人権教育のテーマ】

『郷育』のまち・村上」を基に、一人一人の瞳が輝く学校づくり、思いやりの心にあふれた児童生徒の育成 \*郷育とは学校と地域が一体となった教育活動

##### 【猿沢小学校の教育目標】（猿沢小を事例として）

まけない やりぬく たすけあう（校訓 誠実・克己・忠恕）

##### 【猿沢小学校の人権教育に関する目標】

- 人を人として大切にし、誰とでもなかよくしようとする心情の醸成
- 偏見や差別に気付き、差別を許さない公平な判断力の育成
- 差別に負けない心と、協力して問題を解決しようとする実践的な態度の育成

#### ○人権教育に係る取組一口メモ

中学校区の各小中学校が連携して、人権感覚を磨く活動に取り組むことで、中1ギャップの解消や社会性の育成、自尊心が育成される。

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

##### 【中学校区全体での取組と自校の取組】

- ① いじめ見逃しゼロスクール集会に向け、中学校区各校で共通の資料で取り組んだ人権教育、同和教育の授業や教育活動の実施と、小・中学校が連携した自尊心の醸成を目的とした「ライフスキル教育」の実践
- ② 保護者・地域と連携した人権教育・人権啓発の取組の推進

### 3. 特色ある実践事例の内容

『郷育』のまち・村上」を基に、一人一人の瞳が輝く学校づくり、思いやりの心にあふれた児童生徒の育成

#### ○ 取組のねらい、目的

村上市は『ここで生きる』ことに喜びと誇りがもてる児童生徒の育成を目指しその施策の一つとして「郷育会議」を立ち上げ、地域全体で子供を育てていくことに取り組んできた。ふるさとへの愛着と誇りを心のよりどころとして、自らの人生・進路を切り開いていくためには、児童生徒に、自分を大切にすることとともに、他の人を尊重しようとする人権意識を醸成することが不可欠である。児童生徒の人権意識を高めるためには、学校を核としながら、学校、家庭、地域が密接につながり、地域の子供は地域みんなで育てる意識をもって児童生徒とかかわっていくことが必要である。そこで、朝日中学校校区では、中学校区内の6校が連携しながら、地域ぐるみで取組を推進することとした。

#### ○ 取組を始めたきっかけ

当中学校区の児童生徒は、全体的に穏やかであり、純粋で素直な面がある反面、児童生徒数の減少から、人間関係が固定化してしまう傾向にある。そのため、仲のよい友達とはうまくかかわれるものの、特定の友達に対しては思いやりに欠ける言動をとってしまい、トラブルやいじめ事案に発展してしまう場合も見られた。これは、児童生徒に倫理観や規範意識が育ちににくくなったり、相手意識が不足していたりすることの表れであると考えた。

こうした児童生徒の心をめぐる問題に対処していくためには、小中学校で連続した心の教育を推進するとともに、児童生徒を取り巻く地域全体での人権意識の醸成が必要である。そこで、保護者や地域の教育力を活用し、地域ぐるみで人権意識を高めていくよう本主題を設定した。

#### ○ 推進の構想

当中学校区は小学校5校、中学校1校と学校数が多い。そこで、全6校が本研究に同じベクトルで取り組むため、人権教育推進に関する統一プランを作成し、これまでの自校の取組の見直しと改善を図った。推進校の1つである猿沢小学校では、人権教育をグランドデザインの中核として位置付け、人権教育の視点から学校経営を行うよう努めてきた。このことで、学校のあらゆる活動に人権についての視点をもつことにつながった。また、学校と家庭、地域で取組を推進するために、地域コーディネーター、PTAとも連携を十分図ることとした。



## 猿沢小学校人権教育統一プラン

### 【朝日中学校区テーマ】

『きょういく郷育』のまち・村上」を基に、一人一人の瞳が輝く学校づくり、思いやりの心にあふれた児童生徒の育成

### 【猿沢小学校の人権教育の目標】

- 人を人として大切にし、誰とでもなかよくしようとする心情を養う。
- 偏見や差別に気付き、差別を許さない公平な判断力を育成する。
- 差別に負けない心と、協力して問題を解決しようとする実践的な態度を育てる。

### 【猿沢小学校の人権課題】

- 周りの言動に流されず、勇気をもって正しいことを行おうとする実践的な態度を育てる。
- 相手の気持ちを考えて思いやりのある行動ができる児童を育てる。

#### 効果的な教育内容の創造

##### 授業づくり

- 「生きる」シリーズを活用して人権教育の授業を計画的に実践する
- 一人一人を生かす授業づくりに努め、学級の仲間と磨き合う学習態度の育成を図る
- 学習参観日に人権教育の授業を保護者へ公開し、保護者の理解を深める

##### 特色ある教育活動

- 縦割りボランティア活動を通して、障害者や高齢者と交流し、差別や偏見を持たない公正な態度や実践的な態度を育てる
- ライフスキル学習を通し、対人関係能力を高め、自他の尊重を基本とした人間関係づくりを進める
- 村上市人権擁護委員による各学年別の人権講話を行い、人権感覚を高める

##### 仲間づくり(集団づくり)

- 児童会活動や学校行事等で縦割り班活動の充実と活動後の振り返りの指導の重視
- 思いやりのある行動の奨励と称賛
- 人とかかわりを大切にした教育活動の実施

### 朝日中学校区いじめ見逃しゼロスクール

#### 家庭や地域と連携した活動

##### 家庭との連携

- 人権教育授業公開により、各家庭での人権意識の高揚を図る
- 学校だより・学級だより等による家庭啓発活動
- 家庭と連携した健康生活習慣の実施

##### 地域との連携

- まちづくり協議会との連携による、あいさつ運動などの健全育成活動
- 人権教育、同和教育だより「ふわふわあさひ」の配付による地域啓発活動
- 一人暮らし老人への年賀状送付
- 地域の茶の間への参加

##### 近隣小中学校等との連携

- 小中連携事業「いじめ見逃しゼロスクール」活動への取組
- 人権教育推進部の義務教育9年間を見通した人権教育の推進
- 小中合同による人権教育研修会や各学校の人権教育授業研修会の実施

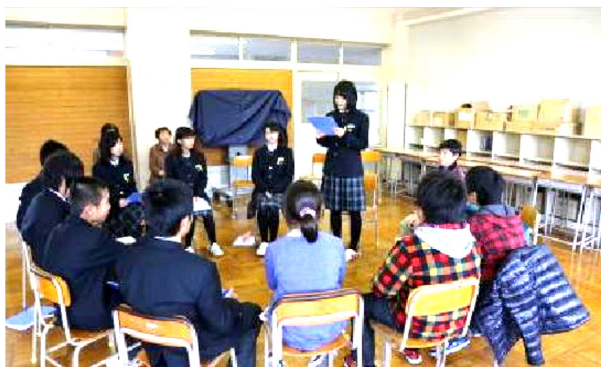
## ○ 取組の内容

### 1 校種、学校間を連携した共通の取組の推進

#### 【いじめ見逃しゼロスクール集会】

#### (1) 共通の資料で話合いの活発化を図る

この集会は新潟県が推進する『いじめ見逃しゼロ県民運動』（※学校、家庭や地域の協力のもと、より多くの人の目で児童生徒を見守り、育てていく県民ぐるみの取組）を受け、いじめはもとより不登校、暴力行為等生徒指導上の諸問題の解決のため、学校、家庭、地域、関係機関等が



確かな連携を図り、早期発見・即時対応に努めることと、児童生徒の社会性育成の取組を更に進めることを目的としている。

集会では、小学生（5、6年）と中学生の12名程度を1つのグループとして構成し、いじめについて話合いを行った。地域の方からも話合いのアドバイザーとして各グループに参加していた。

だいた。

さらに、児童生徒の主体性を高めるため、事前に各小中学校で共通の資料「切られた心」（生きるⅢ）を学習し、個々の感想を記入したプリントを持ちよって話合いに参加した。共通の資料をベースとして話合いを行ったことで、視点が明確となり、中学生を中心に、各グループで活発な意見交換がなされた。児童生徒一人一人がいじめに対する意識を高め、どのように対応するのかを考える有意義な機会となった。

#### (2) 校内いじめ見逃しゼロ運動（猿沢小を事例として）

「いじめ見逃しゼロスクール集会」に向け、各小学校では共通して「いじめ見逃しゼロ強調週間」を10月末から1週間を設定した。猿沢小では、11月の生活目標「自分の気持ちを上手に伝えよう」と連動させ、縦割り班での話合いやロールプレイング活動を実施し、よい人間関係を築くために大切なコミュニケーションの仕方を以下のように学習した。

## ○ 相手を傷付けずに、自分の思いを伝える話し方について学ぶ場の設定

いじめ見逃しゼロ運動の一つの取組として、「友達に誘われたときの上手な断り方」について、時間をかけて考え話し合った。ふだんの子供たちの様子を見てみると、理由があるのに「無理」や「駄目」など、短い言葉で伝えてしまい、自分の思いを十分に伝えられない言葉足らずの子供や、はっきり理由を伝えず、友達とぎくしゃくしてしま



### 11月のめあて

## 自分の気持ちを上手に伝えよう。

◇だれかにさそわれたり、たのまれごとをされたけど、用事があってことわらなければならないときは・・・

○相手をいやな気持ちにさせずに上手にことわろう。

はっきりタイプ

わり。

だめーだよ。

もじもじタイプ

はっきりしない言い方

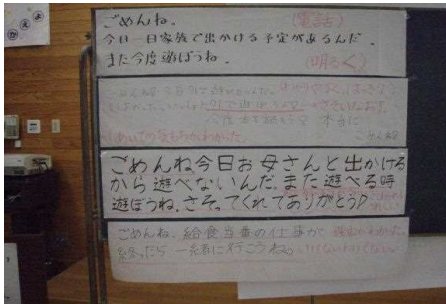
こまったような声

はっきりていねいタイプ

①あやまりの言葉  
②ことわる理由  
③ことわりの言葉  
④かわりのかんがえを言えるといいね。



どんな伝え方をしたらいい？



子供たちの考えた伝え方



ロールプレイの一場面

う子供が見られる。相手を傷付けないように言葉を選びながら自分の思いをはっきりと伝えることは、よりよい人間関係を築いていくため、また、いじめを生まないためにもとても大切なことである。そこで、縦割り班の話合いでは「理由を伝えること。あやまりの気持ちを伝えること。代わりの考えを伝えること」について、子供たちに具体的に考えさせた。

縦割り班ごとに頭を寄せ合い、どんな言い方なら相手が傷付かず、自分の思いをはっきり伝えられるのかを自分たちの考えたそれぞれの言い方で、友達に謝るロールプレイを行った。

断られる役の子供や、周りで見っていた子供たちからは、「この断られ方なら理由があることがよくわかったから、いやな気持ちにはならない。」、「今度遊べるときに遊ぼうと言われたり、誘ってくれてありがとうなどと言われたりすると、断られたけどうれしい気持ちになる。」などの意見が出された。今後は、ロールプレイで学んだことを、実際の生活の場面で少しでも実践してみようと思う子供が増えるよう、働き掛けを継続していきたい。

## 【ライフスキル教育】

### (1) 小・中学校6年間を見通し、教育課程に位置付ける

朝日中学校区では、10年以上前から中学校区内の6校すべてがライフスキル教育を意図的に導入している。小学4年生から中学3年生までの6年間を通して、人間関係やストレスなどの日常生活におき得る様々な問題に対処できる必要な能力や自分を大切にすること(自尊心)を育むことをねらいとしている。

小学校では、ライフスキル教育を通して育成する自分自身をコントロールする能力や他の人とうまくかかわる能力を具体的にして、学校行事だけでなく各教科や道徳、学級活動など教育課程に位置付け、年間計画に沿って3年間実践している。中学校では小学校での学びの蓄積を受けて、重要な人権問題である「いじめ」問題に特に力を入れて取り組むなど、スキルアップしたライフスキル教育を実践してきた。

また、毎年、中学校区内の教職員が一堂に会する研修会を設定し、講師を招いたライフスキル講演会の開催、中学校でのライフスキルの授業公開等を行い、必要性の再確認と、指導力の向上を図るように努めている。小・中学校が一貫して取り組んできたことで、自分を大切にしようとする態度が育ち、他者へ優しい言動で接しようとする様子がより多く見られるようになった。

## (2) 具体的な取組(猿沢小を事例として)

### ○ 5年生 学級活動 題材名「友だちって・・・」

小学校高学年となるこの時期の子供たちは、友達の考えや行動などから影響を受けることが多くなり、そのことが原因でトラブルに発展することもしばしば見られる。そこで学級活動でよい友人関係のポイントに気付かせることをねらいとして授業を行った。授業後には次のような感想が聞かれた。

子供たちの感想から

- ・ いろいろなことを相談してもらえる友達になりたい。
- ・ これからも友達に信頼されるようにして、仲良くしていきたい。
- ・ 自分の気持ちを書くことが少ないので、今日はいい経験になった。
- ・ 友達のことをもっと思いやれる人になりたい。



## 2 保護者・地域と連携した人権教育・人権啓発の取組の推進

保護者・地域と連携した取組として人権講演会を行った。講演会の実施に当たっては、市報を活用するなど呼び掛けを工夫したことで、各校PTAだけでなく地域からも多くの参加者を得ることができた。地域全体で人権について考え、人権や親子関係について意識を高める機会となった。

各学校では道徳授業の指導案検討を行い、体験活動を取り入れるなど実態に応じた心に響く指導ができるようにしてきた。公開授業は、PTAと連携して保護者や地域に参加を呼び掛け、学校・保護者・地域が人権について共に考える機会とした。

また、各学校やまちづくり協議会等の取組を写真で紹介した人権カレンダーを全戸に配付し、中学校区全体で人権について取り組んでいることを各家庭に知らせることができた。さらに、学校とPTA、まちづくり協議会、地域コーディネーター等とが連携しながら地域一斉のあいさつ運動を行ってきた。地域の誰もが参加できる心と心をつなぐ取組として、継続して実施してきた。各地区区長の協力によるのぼり旗の設置、各団体の呼び掛け等もあり、徐々に参加者が増えるとともに、取組を進める中で、参加者は児童生徒一人一人の様子に目を向けるようになるなど人権意識の高まりが見られた。まちづくり協議会が広報誌で取組の様子を伝えたことは、各地区での人権意識の啓発につながった。

## 4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

### 【いじめ見逃しゼロスクール集会】

- ・ 地域の方を招いての集会活動を継続して行ってきたが、回を重ねるに従いマンネリ化傾向が見えてきた。その解決に向け、事前に各校に共通の資料を配付し、子供たちが自分の考えをもって参加する方法に切り替えた。さらに、話合いがより活発化するように地域の方や長寿大学の方をグループの構成員として参加していただくなどの工夫改善をした。

### 【ライフスキル教育】

- ・ 中学校区全体として取り組んで10年以上になる。取り組み始めの子供たちの実態と現在の子供たちの実態が合わないことから、26年度に各校のライフスキル担当者が集まり、共通の年間指導計画についての見直しと改善を図った。

【保護者・地域と連携した取組】

- ・ あいさつ運動等では地域全体で取り組んでいることをより多くの地域の人たちに知ってもらい、積極的に参加してもらうために、広報誌を活用して様子を伝えた。

## 5. 実践事例の実績、実施による効果

【児童生徒評価】

○ いじめアンケートから

中学校区内の小学校5年生から中学校3年生までを対象に実施したいじめアンケートでは、小中学校とも、平成24年度と比較し全体的に好ましい傾向が見られ、特にいじめられている人がいたら、助けてあげたいと強く思う児童生徒が増加した。また、自分は絶対にいじめはしないと判断した児童生徒、いじめはどんなことがあってもいけないと判断できる児童生徒が増えた。これは、いじめや他者の人権についての様々な体験活動等を通して学んだことの成果である。

(%)

| 評 価 項 目 【小学校】              |     | H24. 9 | H26. 6 | ＋－    |
|----------------------------|-----|--------|--------|-------|
| 1 弱い人がいじめられるのはしかたがない。      | D評価 | 88.0   | 90.6   | ＋2.6  |
| 2 よいいじめとわるいいじめがある。         | D評価 | 88.0   | 91.3   | ＋3.3  |
| 3 どんな理由があっても、いじめはよくないことだ。  | A評価 | 82.4   | 89.4   | ＋7.0  |
| 4 いじめられているひとがいたら、たすけてあげたい。 | A評価 | 73.1   | 84.4   | ＋11.3 |
| 5 じぶんは絶対にいじめはしない。          | A評価 | 74.9   | 84.4   | ＋9.5  |

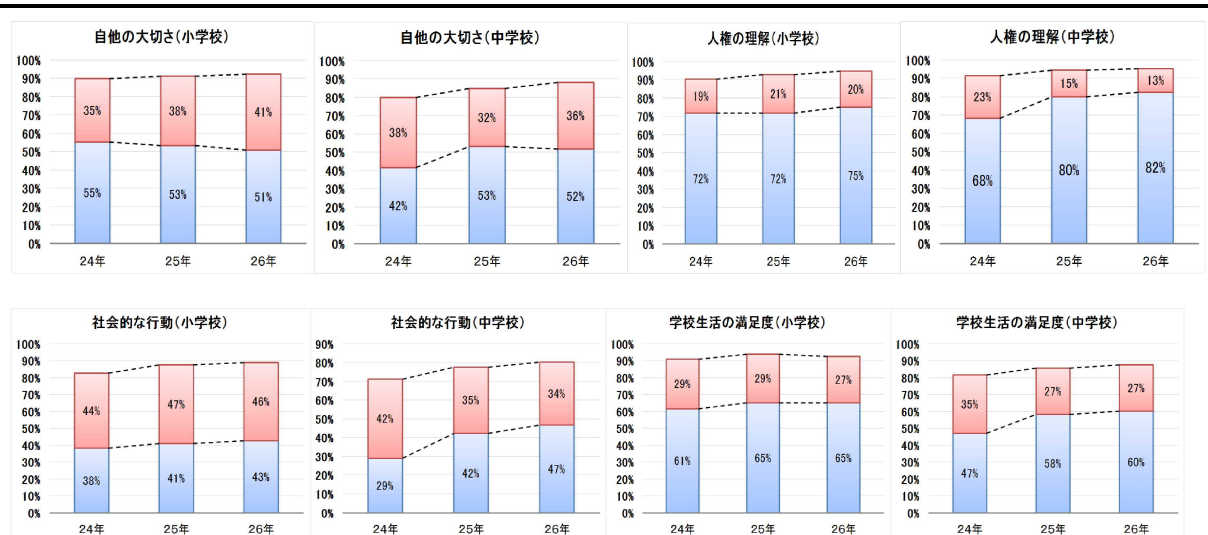
A そう思う B まあそう思う C 余りそう思わない D そう思わない

| 評 価 項 目 【中学校】              |     | H24. 9 | H26. 6 | ＋－   |
|----------------------------|-----|--------|--------|------|
| 1 弱い人がいじめられるのはしかたがない。      | D評価 | 79.0   | 84.0   | ＋5.0 |
| 2 よいいじめとわるいいじめがある。         | D評価 | 80.9   | 83.5   | ＋2.6 |
| 3 どんな理由があっても、いじめはよくないことだ。  | A評価 | 77.9   | 79.0   | ＋1.1 |
| 4 いじめられているひとがいたら、たすけてあげたい。 | A評価 | 51.1   | 58.8   | ＋7.7 |
| 5 じぶんは絶対にいじめはしない。          | A評価 | 66.0   | 72.8   | ＋6.8 |

A そう思う B まあそう思う C 余りそう思わない D そう思わない

○ 児童生徒人権意識調査評価結果から

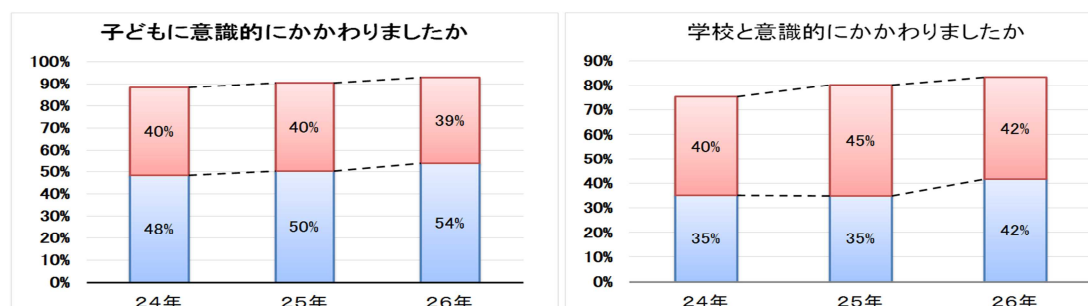
下のグラフは、児童生徒が各項目について肯定的評価をした割合である。小学校、中学校ともに自他の大切さについての意識が高まり、それとともに人権についての意識や感覚が高まってきていることが分かる。さらに「誰かが嫌なことをされたら止める」「問題が起きたら話し合う」など、自分以外にも目を向けて、よりよい行動をしようとする社会性も高まっている。



■ そう思う ■ 概ねそう思う (肯定的評価)

■ そう思う ■ 概ねそう思う (肯定的評価)

○ 保護者評価から



保護者が子供や学校に意識的にかかわったかについての評価では、子供に対して意識的にかかわっている保護者の割合が徐々に増えていることが分かる。また、学校行事への参加や、学校への相談など学校との連携を積極的に図っていこうとする意識が高まってきている。これは、各学校とPTA役員等が連携して、道徳授業参観等への参加を呼び掛けたり、地域全体であいさつ運動を実施したりしてきたことが、より多くの保護者の児童生徒に意識的にかかわろうとする人権意識の啓発に結び付いたものと考えられる。今後さらに、保護者や地域の人権についての意識を維持、向上していくために、日常的、継続的な児童生徒とかかわる場の設定と人権についての正しい知識を得るための研修の設定等を工夫していくことが必要である。

## 6. 実践事例についての評価

- 児童生徒アンケートの結果から、自他の大切さについて、自分とともに他人も認め、共に大切にしよう意識している割合が高くなっており、人権についての意識が徐々に高まってきている。
- いじめ見逃しゼロスクール集会や小中一貫したライフスキル教育の実践が、児童生徒の人権尊重の意識の向上にプラスとなった。これは、各校で人権教育、同和教育の共通した取組を実践したこと、自校の実態に応じた人権教育強調週間での取組の成果が現れたものであると考える。
- あいさつ運動を始め、児童生徒と親密にかかわりながら地域全体の人権意識を

高める取組が定着してきた背景には、地域コーディネーター、サブコーディネーターの先見的な働き掛けによるところが大きい。長期にわたって児童生徒とのかわりを進めてきた地域コーディネーターの取組をもととしながら、それを更に地域に広めるように働き掛けを行ったことで、人権教育についても地域と連携した取組を進めることが可能となった。地域の人権意識を更に高めるためには、地域コーディネーターの取組を核としながら、今後も各方面への働き掛けや広報活動を継続していくことが必要である。

- これからの変化の激しい社会を生き抜く子供たちにとって、知識や技能の習得は大切な要素となる。しかし、自己を大切にし、他者を思いやる心の育成をおろそかにしてはならない。人権感覚を磨き、いわれなき差別を許してはならないという心情を育むことは、地域社会の役割であり家庭の役割でもある。その中で、学校がなすべき役割を明確にし、地域や家庭と相互に連携・協力していくことが大切になってくる。大きな課題となるが、取組の歩みを止めたり遅延したりするのではなく、これまでの取組を更に成長させるよう努めていかなければならない。

#### 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

##### 村上市立猿沢小学校

中学校区各校で共通の資料を用いて校種間の接続・一貫性を追求しつつ人権教育を推進している事例である。いじめ及び不登校等の問題解決のため、学校、家庭、地域及び関係機関等が連携を図り、早期発見・即時対応に努めつつ、児童生徒の社会性育成の取組を更に進めることを目的とする「いじめ見逃しゼロスクール集会」を軸として、特に自尊心の醸成を目的とした「ライフスキル教育」に力を入れている点に特徴がある。縦割り班での話し合い、ロールプレイング及びコミュニケーション・スキルの学習等を活用して成果を上げている。